
美少女の絶対王政

初音カノン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

美少女の絶対王政

【Nコード】

N1960Z

【作者名】

初音カノン

【あらすじ】

健全たる平凡な高校生が不運な事に無差別事件に巻き込まれ殺され、異世界転生してしまった。転生先はまだ王が独占的に政治を行う絶対王政の強い王国の侍女。勿論俺は男だが、王に逆らえば殺される…とはいえ、一回死を経験している訳で。

そんなよく分からない転生を描いた物語。禁表現は少なめですし、そっち方向への強い期待はおやめください。

処女作なのでしょぼくれています。楽しんで頂けたら…と言う思

い
で
す。
お
暇
な
方
の
み
で
お
願
い
し
ま
す。

多分始まり

『起きろ。浩太』

何処からか薄っすらと声が聞こえる。女の声…にしては随分と男らしい喋り方だが、この際喋り方などどうでも良い。何故か分からないが体が痛いのだ。この締め付けられる様な、何とも言えない痛みに苛立ちを覚えながら、冷静に神か、それとも宇宙人に近いのか分からない何かに問いかける。

- - -この痛みは何なんだ？痛すぎて…

『前の体と今の体の差に魂が抵抗しているのだろう。薬で言う副作用のようなものだ。それよりもお前の体はもう別の者に所有権が回ったみたいだぞ？良かったな、新しい所有者が見つかった。』

- - -…は？今の体…？所有権、という事は今の姿は何なのだろうか。

『お前は覚えていないのか。数秒前の事くらい猫でも覚えていると思うが、まあ良い。お前は秋葉原に居ただろう？数秒前。』

- - -え……ああ。確かそうだった気もするが、もう体の痛過ぎるに1+1位簡単な計算も出来ない位に痛い。数秒前を思い出そうとしても頭の痛さとダルさだけが溢れて来て、もう訳が分からないのだ。

「コンビニに入ろうとドアに手を伸ばした瞬間、真後ろから迫り来る無差別犯に一刺されたんだぞ？丁度見物していたが久々に見事な

モンを見せて貰ったよ。」

「……おいおい……その時助けてくれたら良かったのに。見物じゃなくて助けてくれよ……」

「それは不可能な話だな。一応私達が現実リアルを弄いじるのは大罪つみなんだ。でもその刺された瞬間に、お前の魂の欠片が此所こゝに来たって訳だ。これからお前の魂は違体に行く……所謂「転生」をする事となるのだが、準備は良いか？体の方は一応ランダムだろうし分からないから何とも言えないが危険な場合も有る。」

「……き……危険？」

「ああ。この前は魔物になって待ち伏せしていた勇者に生きかえった瞬間に殺されてたしな。哀れだった……。勿論性別も何も、何の生命体かもがランダムだから、もしかしたら微生物になる可能性も有るからな。人間になれただけでも十分運の有るヤツだと思えよ。」

「……は……はあ」

「お前はただ、自分の幸運を祈れ。ではまた会おう。……」

そして……俺の意識は遠のいていった。

目覚めた時には檻の中

鼻に付く匂いが充満しており、吐き気がして目覚める。まるで腐った生ゴミをそこ等にブチまいた様な匂い。あの噂のゴミ屋敷付近に行った時も尋常じゃなかったがそんなのじゃ比べ物にならない位臭い。

「お…おい…アル！大丈夫か…？」

ゆっくりと目を開けると物凄く汚い格好をした親父が何かを叫んでいる。気が付いた時には辺りが真っ暗かつ異様な空気の中。数秒してやっと、さっきの会話を思い出す。確か「転生」だとか「無差別事件」とか、物凄い単語を聞いた気がする。親父に体を起こされて、辺りを見回す。

「ろくなモン貰えねえし、倒れてもしょうがないよな。お願いだから死んで俺を一人にしないでくれ…。」

汚い親父は俺の手を握って泣いている。辺りは暗く静まり返っていたが、それでも時々えげつない叫び声の様な雑音の様な音を混じりながらもやっぱり空気が重い。

「お、お…、アル！め…目覚めたか…。」

親父は安心した様に俺の頭を汚い手袋の上からなでまくる。俺はまだ少ない情報の中だけれども少しだけ理解出来たのは、「アル」という人物は死んで何処かに行き、代わりに「俺」がこの体に転生したという事。それとこの汚い親父「アル」は親しかったのだろう。汚い親父の手はやっぱり汚くて、辺りも肌寒いのにも関わらず何故かとても温かくて、俺はそんな気がしたのだ。

「ガシャン!!!!!!」

急に辺りから金属音が木霊こだまする。俺は身震いして辺りを見回すが、先ほどの変化は明らかだった。周りにあった金属の壁が瞬時になくなり、その瞬間今までは存在しなかった「光」が差し込む。しかし、隣に居た筈の汚い親父は消えうせ、俺の周りにある光しか見えない。

そして瞬間的に現実で言うところと警察官の様な服を着た、女が現れる。
「.....29931だな。お前の買取先が決まった。良かったな、物凄く金持ちだよ。物凄く運が良かったと思え。」

そついで残すと、腕の上にバーコードを読み取る機械のような物を翳かきし、瞬間的に消えた。…一体何が起こっているんだ？「転生」とやらをしてから本当に意味が分からない。あのさっきの汚い親父はどうして消えたのか。そしてさっきの女は何故瞬間的に消えたのか。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1960z/>

美少女の絶対王政

2011年12月29日15時51分発行